



Team Noah

MEDIA RELEASE

2019年6月7日



AZIMUTH



「AZIMUTH CIVIC TCR」 リタイヤ回避で執念のチェッカー



PETRONAS
SYNTIUM

DIXCEL
ADVANCED BRAKE TECHNOLOGY

ピレリスーパー耐久シリーズ 2019(S 耐)に参戦する Team Noah の「AZIMUTH CIVIC TCR」は、5月31日～6月2日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催されたシリーズ最長の耐久レース、第3戦「富士 SUPER TEC 24時間レース」の ST-TCR クラス(全9台)に参戦。ゴールまで6時間を切って3位表彰台を狙って走行中だった9時20分、1コーナーアウト側のガードレールにクラッシュ。ピットへ戻って修復するもダメージは大きくレース続行を断念した。しかし最後にコースインして執念のチェッカー。8位となり7点、そして完走ポイント1点の計8点を追加した。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表:清瀧雄二)は、“九州に元気を!九州のモータースポーツにもっとワクワクを!”を合言葉に九州のレーシングチームとして S 耐にフル参戦。2年目となる今年は参戦車両をホンダ・シビック TCR に変更した。ドライバーは福岡在住の清瀧、熊本在住の塚田利郎、蘇武喜和というレギュラー3名に、開幕戦にも参戦した芳賀邦行、昨年の24時間優勝メンバーである松本和之、さらにチーム初合流の西村元希を加えた6名体制で臨んだ。この24時間レースは、昨年 Team Noah が初優勝を達成したレースであり、シリーズ最大の山場でもある。ST-TCR クラスには、4台のホンダ・シビック TCR、4台のアウディ RS3 LMS、VW ゴルフ GTI TCR という計9台が参戦した。

入梅前の富士はコースサイドのグリーンにシロツメクサが咲き初夏の装い。100R イン側やダンロップコーナー横などには今年もキャンプをしながらかレースを楽しむファンが数多く立った。31日の公式予選は、A、Bドライバー2名のベストタイム合算で争う。Aドライバー塚田は1分50秒594で3位、Bドライバー蘇武はコースレコードを更新する1分49秒543で5位で、合算で4位につけた。また芳賀、松本は車両の慣熟走行に勤しみ、フリー走行では清瀧、西村が車両の走行感覚をつかみ、満タン走行の確認などを行い、決勝レースの準備を進めた。また走行後はメカニックらが車両のチェックやパーツの交換等を行い翌日に備えた。

1日14時59分、グリーンシグナル点灯と共に長丁場のレースがスタートした。ステアリングを握るのは蘇武だが、ハイペースの上位陣にはついていかず、順位を6～7位に落としながらも決められたペースを守り車両を労わる走行を続けた。16時半過ぎにピットインして西村に交代。日没のトワイライトタイムの18時20分に塚田に交代し、すっかり日の暮れた20時に松本へつないだ。予定どおりに1スティント1時間40分でレースを進め、21時40分には芳賀へ、さらに23時20分には再び蘇武へ、夜中の1時には塚田、2時40分には松本へつないでいる間に、上位を走るライバル車にトラブルが発生しポジションは4位へ浮上した。

周囲が明るくなった5時20分。チームはここで義務付けられた10分間の”メンテナンスタイム”を取り、ブレーキローターとパッドの交換、オイルチェック、クラッチのエア抜きなど車両のチェックを行い、清瀧がコースへ。7時25分には西村に交代し、9時15分には三たび蘇武へ。3位争い中の4～5位を走っており、残り6時間を粘り強く走れば表彰台は獲得できそうだった。しかし交代した直後の9時20分。蘇武は1コーナー直前でマシンを突然左に向けアウト側のガードレールに激突。何とかコースを1周してピットへ戻ってきた。ガレージではメカニックがてきぱきと作業を行い、フロント部分のバンパー、インタークーラー、ラジエーター等パーツを取り外し交換。1時間半ほどの作業でほぼ修復できたかに見えたが、ダメージはエンジンにも及んでおり、チームはここでレースの続行を断念。完走狙いで最後にチェッカーを受けることとした。

ゴールまであと5分という14時54分、希望した蘇武が痛々しい姿のシビック TCR でコースイン。レーシングスピードには全く届かないが、何とか2周して執念のチェッカーを受けた。完走8位で計8ポイントを追加という結果だった。第4戦は、7月20日～21日に、チームの地元オートポリス(大分県)において5時間レースとして開催される。

清瀧雄二「去年と今年、2年続けてうれし泣きでした。去年は優勝で本当にうれしくて泣き、今年は修復中のメカニックが悔し涙を流しているのを見て、強い気持ちでやってくれているんだといううれし涙。結果は残念ですが、次は私と塚田、蘇武の三人で戦います。蘇武くんもリベンジの気持ちで攻めてくれると思います」

塚田利郎「(優勝した)45号車は去年僕たちがやったような走りで、流れもありました。いいことも悪いことも、レースって人間ドラマが魅力なんです。楽しいこともあります。今回のこの悔しさをバネに次の地元オートポリスで取れば気も晴れます。富士の無念をオートポリスで晴らす、そんな気持ちで次は走りたいと思います」

蘇武喜和「前の周では問題なかったのですが、他車両とブレーキング勝負した際に右フロントがロックしてコントロールできませんでした。初めてガードレールにクラッシュするというミスは自分でも衝撃的でした。乗る前から自分のメンタルをコントロールできていなかったのでしょう。申し訳ない気持ちです。最後は無理を言って走らせてもらいました」

芳賀邦行「レースは全部がうまくいくわけではありませんし、今回の結果は仕方がないですね。今回起きたことを次につなげていくことが大事でしょう。夜のステイントはこれまで経験がなかったので、そこへどういう流れを作るのが自分の課題でしたが、よい経験になりました」

松本和之「夜間の2ステイント、いいところを担当させてもらいました。3位が見えてたのですが、それを取りに行こうとしたところの難しさがありました。それまで張り詰めていた気持ちが抜ける時間帯でしたから。僕もあの場所は気になるところだったので、雑談でも良いからそんな話をしておけば良かったと思います。もてぎでは結果を残したいです」

西村元希「レース始まってすぐと明け方の4時間ほど乗りましたが、コースやタイヤなどのコンディションが異なったのでその切り替えが難しかったです。今回の結果は仕方がないです。みんな全力で戦った結果ですから。また乗る機会があれば、頑張りたいと思います」